

リトアニア月報

2024年10月

在リトアニア日本国大使館

※本月報は月末現在の公開情報等を大使館で取りまとめたものです。

10月の振り返り

- 10月に入り、美しい紅葉と大量の落ち葉の季節となり、毎年のことながら大自然のダイナミズムに圧倒されます。
- 総選挙は、71の小選挙区の中で、13日の第一ラウンドで当確(50%以上の得票率で当選確定)の出なかった63の選挙区で27日に第二ラウンドが行われ、ここで「社会民主党」が圧倒し、第一ラウンドでは僅差だった現与党「祖国同盟」との差を一気に拡大、比例代表(全70議席)含めた全141議席の最終結果は、「社会民主党」52(38議席増)、「祖国同盟」28(現筆頭与党、21議席減)、「ネムナスの夜明け」20、「リトアニアのための民主連合」14、「リベラル運動」12(現与党連合)、「農民グリーン」8、その他7となりました。議席数10で与党連合の一角を占め党首が経済イノベーション大臣を勤めていた「自由党」は、第一ラウンドで議席確保のための最低ライン5%に届かず、全議席を失いました。若者世代の投票率が前回から急落したことが原因のようです。(＊日本リトアニア友好議連の主なメンバーで落選した方々のお名前を月報の巻末に掲載)
- また「祖国同盟」の党首だったランズベルギス外相は、カウナス地域の小選挙区でカイリース文化大臣に遅れをとったこともあり、選挙後、議員を辞任し政治活動からしばらく身を引くと発表しました。
- 最大与党となった社会民主党の党首ブリンケビチュウテ欧州議会議員は、選挙期間中に党が勝利すれば自分が首相になると明言していましたが、選挙で勝利後、結局年齢(64歳)を理由に首相にはならず欧州議員としての活動を継続するとして、他党からの厳しい批判を呼びました。社会民主党は首相候補にナンバー2のパルツカス氏(45歳、前社会民主党総裁、元ビリニュス副市長)を選定しました。11月の半ばまでには与党連合が形成され最初の国会が開催されます。
- 尚選挙期間中、ナウセーダ大統領が各党の党首と個別面談をしたり(祖国同盟党首とはやっていないようです)、社会民主党を中心とした与党連合の構成等に関して公言したりしていることに対して、アダムクス元大統領が、大統領の地位に相応しくない行動と苦言を呈したと報道されました。
- 安全保障面では、「Defending Baltics」(War Lessons from Ukraine)という国際カンファレンスが開催され偶々来訪中の台湾の国防副部長のスピーチが加えられました。また、リトアニアとOECDが偽情報対応の国際訓練の共同ホストを務め、ウクライナ、モルドバ、米国やアジア、アフリカから十数か国が参加し、バルチャーティーテ官房長官は、専門性を共有して集团的優位を確保するうえで極めて有意義とコメントしました。また、リトアニアが2018年から主導するEUのCyber Rapid Response Teamは、モルドバの大統領選挙とEU加盟への国民投票に対するサイバー攻撃への対処のために活動態勢にあったと報じられました。
- ウクライナ支援では、外務省主催でリトアニア開発協力カンファレンスが開催され、「国際連携を通じた強靱性の構築」と題して様々なウクライナ支援の取り組みが議論され、台湾に続いて

アイルランドもリトアニアとの MoU を締結、リトアニア政府の CPMA を通じたウクライナ支援に参入すると公表されました。

- 文化交流面では、枝廣福山市長と小丸在福山名誉総領事の御一行が来訪しアリートゥス市長らと面談され、来年の福山市における第 20 回世界バラ会議福山大会 2025 を契機に両市の交流を積極化することが合意されました。また福山通運グループ主催の第 7 回目の日本語スピーチコンテストも開催され、昨年を上回る多数の参加者で盛り上がりました。またヴィブラフォンの會田瑞樹氏と聖クリストファー室内合奏団の合同コンサートやビリニュス・ジャズフェスティバルで久々に来訪した「大友良英スペシャルビッグバンド」のコンサートが人気を博し、日本の音楽のリトアニアでの親和性が語られました。
- また「Lonely Planet」の発表した「2025 年訪問すべきベスト 30 都市」の第 2 位に、来年ビリニュスが「欧州グリーン首都」であるリトアニアが選出され話題となりました。

駐リトアニア日本国特命全権大使
尾崎 哲

ー内政ー

4日 国会総選挙を13日に控えた各政党の支持率は、社会民主党18.3%、ネムナスの夜明け11.6%、祖国同盟9.2%、リトアニアのための民主連合6.6%、農民・グリーン同盟6.3%、リベラル運動5.2%、地域党2.8%であった。回答者のうち22%が投票先は未定と答え、8.5%が投票に行くつもりはないと答えた。(ELTA)

13日 リトアニアの国会総選挙の投開票が行われた。全70議席の比例区では、最大野党の社会民主党が全政党中最多となる18議席を得た。筆頭与党の祖国同盟は17議席、2023年に設立された反ユダヤ主義的ポピュリスト政党のネムナスの夜明けが14議席を獲得。全71議席の小選挙区では、社会民主党2名、ポーランド人選挙活動党2名、祖国同盟1名、ネムナスの夜明け1名を含む計8名が議席を獲得。残りの63議席については、27日に上位2名による決選投票を実施される。投票率は52.06%であった。(リトアニア中央選挙管理委員会)

21日 ビリニウスで一連の放火が発生し、容疑者が捉えられた。カシュナス国防相は、本件はサボタージュではないと判断されると述べ、国民の疑念を払った。(ELTA)

27日 リトアニアの国会総選挙の小選挙区決選投票が行われ、全議席が確定した。最大野党の社会民主党は14議席から52議席に増加し、最大議席数を獲得。その後に、49議席から28議席に減少した筆頭与党の祖国同盟、20議席を獲得したポピュリスト政党のネムナスの夜明けが続いた。リトアニアのため

の民主連合とリベラル運動は微減の14議席と12議席、農民・グリーン同盟は議席を半数以下に減らし8議席であった。与党の自由党は獲得を失った。決選投票の投票率は41.04%であった。(リトアニア中央選挙管理委員会)

28日 今次国会選挙にて小選挙区で敗れたランズベルギス外相が、祖国同盟の党首を辞任し、比例復活で得た議席も返上すると発表。次期党首にはシモニーテ首相が適任だと述べた。(BNS)

30日 ブリンケビチュウテ社会民主党党首は、年齢を理由に首相就任を辞退した。ブリンケビチュウテ氏は、今回の選挙で当選したにもかかわらず欧州議会議員を続けることを明らかにした。その決断を早期に公表しなかった理由については報道陣に語らなかった。(BNS)

31日 社会民主党の首相候補のパルツカス議員は、リトアニアの新政府は中国との大使級の外交関係の完全な回復を目指すと述べた。同議員は、台湾に台湾の名前を冠した代表処をリトアニアに設立させたことは「重大な外交上の過ち」と指摘したが、中国が要求した場合に台湾に名称変更を迫るか否かについては明言を避けた。(BNS)

ー外政ー

1日 リトアニア政府と国民を代表して、シモニーテ首相が石破新総理に祝辞を送付。書簡の中でシモニーテ首相は、リトアニアは日本との戦略的パートナーシップのより一層の深化に関心を寄せていると述べ、日本の揺るぎな

いウクライナ支援に謝意を表した。(リトアニア首相府発表)

2日 ランズベルギス外相は、ワルシャワ・セキュリティ・フォーラムの大臣級パネル「Thinking Europe Anew: Forging a Vision for Future European Security」に登壇。「ロシア、中国及びその他の攻撃国に対処する際、専ら我々は安定性の罨と呼びうるものに掛かっており、存在論的な脅威の観点から見ていない」と警鐘を鳴らした。(ELTA)

8日 ナウセーダ大統領は、ジョヨン初代駐リトアニア韓国大使から信任状を受け取った。ナウセーダ大統領は、新たに開設される韓国大使館が、経済、安全保障、科学技術、文化など各分野における協力の機会を更に広げるだろうと述べた。(リトアニア大統領府発表)

20日 モルドバで投開票が行われた EU 加盟のための憲法改正に関する国民投票が可決されたことを受け、リトアニアの首脳らが「X」にて祝意を表明。ナウセーダ大統領は、サンドゥ大統領がモルドバを EU 加盟まで率いることを祈念し、シモニーテ首相は、モルドバがロシアのハイブリッド攻撃に対して強靱さを示したことを賞賛した。(X の投稿取りまとめ)

—軍事・安全保障—

2日 カシュウナス国防相は、リトアニア駐留ドイツ旅団のフーバー司令官と面会し、旅団配備までの過程における次の段階について議論した。フーバー氏は、リトアニア中部ルクラに駐留するドイツ主導の NATO 強化型前方プレゼンス(eFP)部隊の初代司令官を務めた。(BNS)

10日 カシュウナス国防相は、レバノンからのリトアニア国民の退避を援助したリトアニア軍の軍人及び軍属を表彰した。前週、リトアニア空軍のスパルタン航空機によって、18名のリトアニア人を含む31名がレバノンからリトアニアに退避した。(BNS)

16日 経済イノベーション省は、ウクライナの企業がリトアニアに RDX 弾薬工場を建設すると発表。企業名は非公表であるが、同省は当該社と基本合意書に署名した。建設は来年開始される。(BNS)

17日、カシュウナス国防相はブリュッセルにて開催された NATO 国防相会合に出席。NATO 同盟諸国に対して、防衛支出額を少なくとも3%に引き上げるよう促した。日本、韓国、オーストラリア及びニュージーランドから構成される IP4 (インド太平洋4か国パートナー)とのセッションでは、ロシア、中国及び北朝鮮間の協力関係について議論された。(リトアニア国防省発表)

22日 リトアニアの国防評議会は会合を開き、現在リトアニアで創設中の師団に戦車及び歩兵戦闘車を装備する計画について議論した。ブドリース国家安全保障担当大統領顧問は、防衛産業と防衛費の状況が変わらなければ、組織中の師団は、予定した2030年の期限から6年から10年遅れて最大運用能力に達することになると警告した。(BNS)

24日 カシュウナス国防相は Euronews の単独インタビューに応じ、ロナルド・レーガン元米大統領の「力による平和」を実行するべきだと主張した。ロシアは力を持つ相手には敬意を

払うため、ウクライナの軍事的腕力を強化することが重要だと述べた。(Euronews)

ー経済ー

1日 リトアニアで初となるレールバルティカ・インフォメーションセンターがカウナス駅にて開所。進行中のレールバルティカ事業に関する最新の情報を提供する。レールバルティカの建設に伴い、カウナス駅の利用乗客数はビリニュス駅を上回り一日約11,000人となると見込まれている。(ELTA)

16日 リトアニアの国営エネルギー企業であるイグニティス・グループが、同国の第2回洋上風力発電入札の再入札に参加することを決定。再入札は2024年11月中旬に開始され、2025年まで4月末までに落札者が発表される予定。イグニティス・グループは、最大49%出資するパートナーやコンソーシアムを模索している。(ELTA)

19日 リトアニアのライフサイエンス企業デルタ・バイオサイエンス社が、NASAの先進宇宙健康技術を推進するアクセラレータープログラムにヨーロッパ企業で初めて選出された。当社は、宇宙ミッション中の宇宙飛行士を放射線から保護する化学物質を開発している。(ELTA)

ー広報・文化ー

10日 ヌガラス教育科学スポーツ省副大臣及びヴァリンチウス・リトアニア研究評議会会長は、京都で開催された「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)」

に出席。ヌガラス副大臣はまた、日本国内でリトアニア語が履修可能な唯一の大学である東京外国語大学を訪問した。(在京リトアニア大使館 Facebook)

18日 岐阜県で「Lithuania Now」が開幕。今回で7年目の開催となり、種々のリトアニアに関する演目やリトアニアの伝統品の販売が行われた。29日にはジーカス在京リトアニア大使が、岐阜大学でリトアニアと日本の関係について講義を実施した。(在京リトアニア大使館 Facebook)

<日本リトアニア友好議連の主な落選者(アルファベット順)>

- Vilija ALEKNAITE ABRAMIKIENE(祖国同盟)
- Jutas DZIUGELIS(祖国同盟)
- Jonas LARUTIS(農民グリーン)
- Liudas JONAITIS(祖国同盟)
- Kestutis MASIULIS(祖国同盟)
- Marius MATIJOSAITIS(自由党)
- Vytautas MITALAS(自由党、議会副議長)
- Monika NAVICKIENE(祖国同盟)
- Monika OSMIANSKIENE(自由党)
- Edmundas PUPINIS(祖国同盟)
- Robertas SARKNICKAS(農民グリーン)
- Andrius VYSNIAUSKAS(祖国同盟)

(了)